

文化財の名称等

名称	員数	基準	建設年代	所在地
加茂神社本殿	1棟	2	慶應 4(1868)年	長野市西長野加茂裏 213
加茂神社上屋(うわや)	1棟	1	嘉永 7(1854)年	
加茂神社拝殿及び祝詞殿	1棟	2	明治7年	
旅館すぎもと松軒楼(しょうけんろう)	1棟	1	昭和8年	松本市里山辺湯原 451-7 他
前山寺(ぜんさんじ)本堂	1棟	1	江戸中期	上田市前山上神戸300
前山寺庫裏	1棟	1	文政 13(1830)年	
前山寺玄関	1棟	2	江戸末期	
前山寺山門	1棟	1	江戸後期	
りんどう橋	1基	3	明治中期	上田市御嶽堂 4-1 地先
桃澤家住宅主屋	1棟	1	江戸後期	上伊那郡飯島町本郷 279
恵比寿屋原家住宅主屋	1棟	1	江戸後期	上伊那郡宮田村 3272
恵比寿屋原家住宅土蔵	1棟	1	江戸後期	
京口屋墨矢家住宅主屋	1棟	1	明治 23 年頃	上伊那郡宮田村 3303
北の城橋	1基	1	昭和 34 年	上伊那郡宮田村 8018-1 他～駒ヶ根市東伊那 6593-1 他

基準＝登録有形文化財登録基準

建築物、土木構造物及びその他の工作物（重要文化財及び文化財保護法第 182 条第 2 項に規定する指定を地方公共団体が行っているものを除く。）のうち、原則として建設後 50 年を経過し、かつ、次の各号の一に該当するもの

- (1) 国土の歴史的景観に寄与しているもの
- (2) 造形の規範となっているもの
- (3) 再現することが容易でないもの

拝殿の向拝廻りを彫刻で飾った華やかな社殿

○ 加茂神社本殿など3件

善光寺の南西に位置し、善光寺大本願とは縁が深い。本殿は東面する一間社流造で上屋内に安置される。軒唐破風上に千鳥破風を付し、庇の中庸に龍の彫刻を入れ華やか。上屋は一間社流造の形式で棧瓦葺。内部は一室で竿縁天井を張り、床を上下段に分ける。拝殿及び祝詞殿は入母屋造平入茅葺（銅板被覆）で、東に軒唐破風付き向拝、西に両下造銅板葺の祝詞殿を付して上屋と接続する。



加茂神社拝殿及び祝詞殿

〔問合わせ先〕長野市教育委員会 文化財課

電話 026-224-7013

温泉街の景観をつくる旅館建築

○ 旅館すぎもと松軒楼 1件

松本城北東の美ヶ原温泉に位置し、西下がりの坂道沿いに建つ木造三階建ての旅館。切妻造東西棟の南面西寄りに千鳥破風を付し、東寄りに入母屋造の南北棟を突出する。外壁は真壁の漆喰塗仕上げ。通りに面して高欄付きの窓を並べる。昭和初期の温泉旅館の特徴を色濃く残す建築で、時代の流れに対応した改修がなされているが、もとの雰囲気大切に改修方法で、温泉街の風情を保っている。



旅館すぎもと松軒楼

〔問合わせ先〕松本市教育委員会 文化財課

電話 0263-34-3292

独鈷山北麓に位置する真言宗寺院

○ 前山寺本堂など4件

本堂は境内下段中央に南面して建つ寄棟造茅葺。正面に付す唐破風造向拝は頭貫と虹梁の間を雲竜彫刻で飾る。庫裏は本殿東側に玄関を介して南面して建ち、切妻造平入棧瓦葺。玄関は本堂と庫裏の間に位置する東西棟で、屋根を棧瓦葺とする。南に入母屋造の式台を張出し、内部は北に東西二室、西室に座敷飾りを構える。山門は本堂西側の石段上部、三重塔（重要文化財）の正面に北面して建つ一間一戸の薬医門で、屋根は切妻造茅葺。



前山寺 本堂



〔問合わせ先〕 上田市教育委員会 生涯学習・文化財課 電話 0268-23-6362

日本の近代化の象徴でもある輸入された橋梁システムを引き継ぐ

○ りんどう橋 1件

内村川に架かる人道橋。ボーストリングトラス形式の100フィート桁を用いた鋼製単トラス桁橋で、下弦材にアイバーを用いる。現場接手にボルトを用いて施工を簡略化したドイツ国ハーコート社製。明治中期に九州鉄道で使われ、その後丸子鉄道千曲川橋梁、廃線後は道路橋（大石橋）として転用。平成13年の台風災害後、製糸業に関わる近代化遺産が点在する丸子町での活用の声が上がリ、平成19年から新たな歩道橋の一部として活用されている。



りんどう橋 (東側からのぞむ)



〔問合わせ先〕 上田市教育委員会 生涯学習・文化財課 電話 0268-23-6362

大規模な切妻造屋根を持つ天竜川沿いの旧家

○ 桃澤家住宅主屋 1件

切妻造平入鉄板葺で、東面の中央に玄関、南寄りに式台を構え、内部は全体が京間作りとなっている。間取りは部屋を三列に並べて、南列には三間続きの座敷を配し、西端は床と付書院を備えた上座敷とする。桃澤家は江戸時代には村の名主を務め、江戸中期に「伊那の三女」の一人として知られた桃澤亀、その子で京都へ出て和歌を学び二条派歌学の宗匠ともなった歌人桃澤^{むたく}夢宅（元文三年～文化七年。主屋を建築と伝承）といった文化人を輩出している。



桃澤家住宅主屋



〔問合わせ先〕 飯島町教育委員会 生涯学習係 電話 0265-86-3111（代表）

伊那街道の宮田宿に所在する旧旅籠

○ 恵比寿屋原家住宅主屋など2件

伊那街道に東面して建ち、街道沿いの歴史的景観を形成する。主屋は二階建、切妻造平入、鉄板葺で、正面に棧瓦葺の下屋を設ける。正面は一階中央を出入口とし、二階に格子を建てる。内部は中土間を通して、南北列に座敷列など配する。宿場町の様相を伝える大型の町屋。土蔵は主屋の西後方に東西棟で建つ。土蔵造二階建、切妻造、置屋根棧瓦葺で、東妻に戸口を開き、棧瓦葺下屋を設ける。丁寧な左官仕事の土蔵で敷地西部の景観に寄与。



恵比寿屋原家住宅主屋



〔問合わせ先〕 宮田村教育委員会 生涯学習係 電話 0265-85-2314

伊那街道の宮田宿に所在するかつて料理屋を営んだ町家

○ 京口屋墨矢家住宅主屋 1件

街道に西面する二階建、切妻造平入で、全面に下屋を設け、棟に越屋根を付す。内部は南に土間、北に居室一列を配す。二階前面に座敷二室を並べ、縁の手すりに松葉形の飾りをあしらう。宿場の風情を伝える町家。建築年は伝承による移築年と仕様による。昭和40年代に屋根石置板葺を鉄板葺とし、土間の一部に床を張るなど改修。明治23年の大火の後、宮田宿南の河原町からの曳家と伝わる。



京口屋墨矢家住宅主屋



〔問合わせ先〕 宮田村教育委員会 生涯学習係 電話 0265-85-2314

天竜川の伊那峡にかかる吊橋

○ 北の城橋 1件

昭和28年の台風被害後、村道を管理する宮田村が災害復旧事業で現在の吊橋を建設。右岸は宮田村中越、左岸は駒ヶ根市東伊那に位置する。橋長60メートルの単径間鋼製補剛吊橋で、岸縁に主塔を建て、主索、耐風索を兩岸に渡し、路面に木床版を敷く。建設時の主要な構造を維持しながら60年以上の歴史を有する道路橋で、峡谷の歴史的景観を構成する貴重な構造物。右岸には公園があり、観桜期を中心に賑わう。



北の城橋（下流から）



〔問合わせ先〕 宮田村教育委員会 生涯学習係 電話 0265-85-2314